

## いきいき農林水産業組織

組織名	所在地	構成員数	活動の特徴と内容
JA 鳥取中央 くらよしすいかせいさんぶかい 倉吉西瓜生産部会 さんちしんこう 産地振興プロジェクト外部	倉吉市	5 人	<p>【活動の特徴と内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者・就農年数の浅い生産者向けの勉強会や、西瓜役員との意見交換会、圃場巡回等を定期的に開催することで、新規就農者の様々な問題点を解決している。</li> <li>行政と一体となって耕作放棄地を優良農地に再生し、新規就農者へ優先的に回している。</li> <li>産地 PR、就農体験会、食育活動にも積極的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>【活動の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内外での就農相談会で新規就農者の獲得・研修の受け入れを毎年 2～3 名ずつ継続的に達成。</li> <li>県・市・JA 等、関係機関と協力し「倉吉西瓜産地振興協議会」および「倉吉西瓜産地強化プラン」において中心的な役割を果たし、倉吉西瓜による産地振興の中心メンバーとして、消費宣伝も含めた産地振興に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>【組織の活動体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 3 年の倉吉西瓜産地強化・加速化プランでは新規就農者確保に関して、西瓜生産部会の役員が取組んできたが、令和 6 年より産地振興プロジェクト部を新たに創設し活動を始めた。</li> <li>これまで、新規就農担当役員 1 名で担当していた活動を倉吉西瓜生産部会内の部会として、部長を含め 5 名で活動を行っている。</li> <li>部員数が増えたことで、取り組むテーマやイベント・会議の参加も増加してきている。</li> </ul> <p>【組織の総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者の受け入れ、研修に対して、圃場確保・研修先（親方）とのマッチング、生産者同士の交流の場作りに主体的に取り組んでいる。</li> <li>令和元年～6 年までの 7 年間に 38 名の新規就農者を受け入れているが、産地振興プロジェクト部の取組が、新規就農者の定着、部会全体の若返り、栽培面積の増加に大きく寄与している。</li> </ul>

組織名	所在地	構成員数	活動の特徴と内容
JA 鳥取中央 だいえいよくせい ぶかい 大栄抑制メロン部会	北栄町	80 人	<p>【活動の特徴と内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 18 年に設立。西瓜の後作としてメロンを栽培しており、品種としては赤肉のプリモレッド、青肉のアールスメロンの 2 品種を栽培している。</li> <li>栽培面の主な活動として、品種ごとの現地指導会の開催や、新規栽培者向けの勉強会を行っている。</li> <li>販売先は関東・関西の市場を中心に出荷しており、前売り商談に取り組むことで堅調な販売を目指している。プリモレッドについては、かた玉の品種であることから海外にも輸出を展開中。</li> </ul> <p>【活動の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>赤肉メロンについて以前の品種は裂果になりやすく出荷ロスが多くあったが、現在のプリモレッドに転換したことにより、出荷ロスもほぼなくなり、新規栽培者も年々増加している。また、面積、販売額も右肩上がりに増加している。</li> </ul> <p>【組織の活動体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員構成（80 名）：部長 1 名、副部長 1 名、役員 4 名、部員 74 名</li> </ul> <p>【組織の総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西瓜の後作として栽培を開始したメロンは、令和元年と比較して、栽培面積は 11.8ha 増加、販売数量は 3.5 倍（36,832c/s 増）、販売金額は 4.1 倍（149,774 千円増）と拡大が顕著である。</li> <li>当部会は地域内の抑制メロンの栽培体系の確立、栽培技術の向上と改善を図り、栽培農家の経営安定、所得向上の成果を上げている。</li> </ul>